

更にしほつて、その潜在せる人々の中では正當な教育（あえて義務教育とは云わぬまでも）を受けつゝある場合を考えるのは、極めて困難なことなのである。

多くの場合、徒らに年を重ねて、なすべきもない、生計の手段をもつこと等もまた望めない、といふのが実情ではあるまい。そこでわれわれの勤く余地が出てくる。まづ足ものとのところから――。大田区、及びその近傍区居住者の中の（とりあえずC.P.）潜在者を頭在化すること。さうしてまづあらかじめのリストを作成し、相互の親睦をはかり、ひいては我等の手によることの、（人數はどんなんに小人數であつてもよい）さゝやかな私塾的事業の対象たらしめようと企図している。目下の念願はこの二つにある。社会へ理解を求めるためにも理想と現実の困難な兼ね合ひを渡りつゝ、一歩一歩地に足をつけて進んで行きたいとくわわれは論を結んだのでした。

このわれわれの意向が、電波に乗つて全国へ流れることは、「青い芝」の会にとつても又多くの身体障害者にとって、まことに意義あつたことだつたと思うのです。なおマイクは実際に工場で働いてくる肢体不自由者へのルボを、その雇用工場主の声と合わせて、より建設的な後味をもつて、はなむけしてくれました。われわれは、こ

のような社会に対してもアピールを一再にらず行い、世の視聴をこのかくれた問題へ蒐めねばならぬ」と思うのです。その第一声として、われわれ「青い芝」の会の発

言がとり上げられたということは、まことに嬉しくことだつたと思うわけであります。

（註）セントラル・ページ C.P. cerebellar palsy (脳性マヒ) の略語

幸 福 な 私

阿志賀俊範

あゝ私は幸福だ
たとえ小児マヒで立たれなくても
私の心はいつも楽しくゴムまりの様に
はさんでおどりてぐるぐる

あの空の様に
澄みきつて輝いてる
そして私は誰からも愛されて健る
おゝ私は幸福だ

こゝに紹介しました詩は、十月十二日付の朝日新聞の記事を見て、遠く九州の大田から寄せられた手紙に同封されていた三編の詩の中の一つです。作詩された俊範さんはお手紙によりますとかなり重度の障害の御様子です。下さったお手紙は御母堂の代筆でした。しかし、この詩からだけでも御家族の愛情によつてその心が歪んでないのが分ります。



33-3-25

発行所 大田区雪ヶ谷七五〔山北〕青い芝の会
印刷所 大田区調布嶺町二丁目三一
更正社タイプライター オフィス
編集責任者 能勢敦子

塾の開設について

われわれがこの四月からジュクを開くことになつた動機といふのは、こうなのだ。

発会式後間もなく、この会にもつと具体的な活動目標が必要なのじやないだろうか、この会には何ら一定の目標がないという事が耳に入つて来るし、なるほど会員の進歩向上、相互の親睦、福祉的な活動、社会に対するわれわれの正直など一応目標はあるが、それらは少しく抽象的で弱いのではないか、それで、他人に尋ねられた場合、即ちにこういう事会ではやつていると云えるような事が欲しい、といふことが役員の間で話され始めた。そして、偶然にもわれわれは各々、正規の学校教育からオミットされている肢体不自由児に、幸にも正規に教育を受けられた者としてそれらを少しでも教えてあげたい、という気持を等しく抱いていた。その結果が前号でお知ら

せした役員会報告に見られる「基礎的教育措置」の決定となつたのだつた。

さてそこで、家庭訪問による方はいゝとしても、ジュクの方は適当な場所がないければ出来ないのだが、おいそれとそれは見つけられそうもなく行悩み状態であった。ところがそれは意外に早く実現することになつた。

旧年の十二月、光明学校々医で本会顧問をお願いしている伊藤京逸先生から、役員の人たちに一度会いたいからと、一日役員一同お招きを受けて、先生のお宅

に皆でおひやました。そしてその座上ミニクの計画を先生にお話すると、「それは實にいい事だ。場所は、もしよかつたらわらこゝを使いなさい、この剣道場の一階を貸してくれと方々から云つてくるのを皆断つてゐるのだが、そういう事なら喜んで貸してあげよう」と云つて下さつた。そのお話をわれわれはとびついて直ぐ様

ヒント

此の欄は重度の方やその御家庭の方の思付くなり、御工夫を書いて戴く欄で御座ります。

アローマン・マー・コップ（倒れない食器）

一口に申せば「起上りコボシ」の原理を取入れたコップです。蓋に二ヶ所穴があつて傾ければ適量の物が出るようになつて居ても落しても蓋さえして有りますれば起上りますし、二ヶ所の穴からだけですで慌ててすみます。デパートの赤ちゃん賣場にてしか御座いました。御値段は失念致しましたが二百円前後だつたと思ひます。

チヤックの利用法

頃、子供服などによくチヤックが使われますが、私共のもの少しあれを利用して居ません。私共のもの少しあれを利用して居ますが、私がでしよう。昨年デパートの靴売場でチヤック付きの靴をみつけました。あまり安いので「どうしたの」って聞きましたらデザインが悪くて売れないそうでした。私はもつたない話です。

編集後記

本会に御寄附下された方々の御芳名は誠に申し訳ないのだが次号回しにさせていただいた。会員諸氏からの原稿をお待ちする。

会報名の題字の模様は能勢さんの才腕皆様良き年を迎えますよう。（役員一同）

そこをお借りすることを決めてしまつた。こうして顧問、相談役の方々の御協力を得つゝこの四月開ジユクを目指し、色々と準備が始められ、目下その最中なのだ、更に、ジュクをどの様にやって行くかの具体的な方法も決められた。

ジュクでの指導者は、未だこの仕事が海のものとも山のものとも分らず、又果して成功するかしないか分らない試験的なものなので、初めは大体役員のみがこれに当り、同様の意味から教える子供も最初の間は五、六人に止める。教える子供は六、七才から十二、三才までの脳性マヒの児童とし、勿論勉強も大切であるが、脳性マヒに大切な機能訓練をわれわれの経験を生かしてより効果的に勉強と半々位へ行う、教える日は週二回という事などを決定した。

実際、毎年都立光明養護学校への入学が東大以上の狹き門をかもし出しているのを見ても分るように、肢体不自由児の養護学校（施設）の絶体数が不足しているのだが、それらの施設からはみ出した子供たちは一体如何なるのだろうか。そのような子供たちを少しでも救う事が出来るだろう、そこに、われわれのジュクの意義があるのだ。そして又、このジュクをやる事によつて、われわれが何をやれるのか、という社会に対するアピールがありテモ・ズであるのだ。

会の動き

全般

前号にお知らせしました基礎的教育のことは、本会顧問をお願いしている伊藤京逸博士の思われお力添えを得て、ジユク開設の事が急速に具体化致し、只今、四月開ジユクを目標に準備をして居ります。（この詳しい事は別掲）そして、この私たちの計画が再び朝日新聞にとり上げられ、一月十日（一部地域十二日）付夕刊になり大きく掲載されました。

又、本会のことが大田区民新聞の一月十五日号と、実話雑誌三月号に紹介されました。このように社会的出版物にとり上げられたおかげもあって、会員数は増加の一途を辿り、発会式当時四十人ばかりがあつたのが、現在（三月一日）正会員八九名、賛助会員五名計九四名の多さに上っています。そして、最近は特に地方から入会申込が目立つてしまい、そのため、それら地方の人たちへのサービスを如何したらいいか、どういうことが会の新しい課題となつて来ました。

私の抱負

能勢 敦子

私は朝日新聞で山北さん金沢さん高さんの青い芝の会の発会式についての記事を読んで感激し、その準備のお手伝いとしてほんの少しお手伝いしてもらいました。その後、役員の仲間に入れていただきましたが、学校研究所と日夜忙しくしてますことから、日曜日に開かれる役員会に、ひきかえ、金責任を感じて毎日多忙に働いていたりつしやる会長はじめ役員諸氏頼問の先生そして会を盛り上げようと張詰び申し上げなければなりません。それ切つておられる会員の皆様に深く感謝致します。

私は幼くして両親を失い祖母の手で育てられたものでございます。高校まで普通教育を受け、画道へ進むことを勧められて現在女子美術大学美術学部の洋画科に在学中です。兵庫県西宮市の市民の方々は非常に親切にして下さり、現在の学資も大半は奨学金の恩恵にあずかっております。又、叔父や叔母、諸先生、友達など沢山の方の好意に甘んじて勉強している私であります。

高校以来最も敬愛している先生に先

役員会

正会員会としまして昨年十二月二

五日、本年二月一日及び十六日に行いました。十二月二十五日の役員会では、ジユク並びに家庭訪問による、特殊教育機関での教育さえも受けられずにいる身障児への基礎的教育の方法について、より具体的な問題について検討したのですが、問題が問題だけに直ぐには決論が出ず、ジユクの開設は四月というだけに止まりました。

二月一日は、四月まではジユクの事に主力を注ぐ、ジユクの責任者には一応副会長の落合君になつてもらい、ジユク開設に必要な備品を調べ、その調達方法を講じる事を決定し、更に、二月二十三日に小例会を開く事を決定しました。二月十六日には、小例会の通知を発送致し、五月に例会とリクリエーションとを兼ねて、バス旅行を行う計画を討議し会報第二号にどのようなものを載せるかを定めました。

小例会

本来ならばこの例会の御通知は全会員の皆様に出さなければならないのですが、会場その他の事情により、特に普段例会を望んでいる方及び会場に近い方々を重

点的に御通知致しましたので、御案内状の行かなかつた方々のありました事を初めてお詫び致します。雪ヶ谷南自治会館で午後一時より四時まで行いました。まず開会の挨拶の後、賛助会員の篠原さんとお友だち二人とバイオリンを演奏して会に精彩を加えて下さり、二度のアンコールがあつた。それが終つてジユクやリクリエーションの事などの報告があつて、統いて、会員の白石さんが作られた詩集の中から五首の詩を落合君が朗読したり、「これは何でしょう」というゲームをしたりする。終りに自由座談を少時やり閉会となりました。

リクリエーションについて

前にも一寸記しましたように、五月頃の計画は、多分会員の大部分の皆様はあまり旅行などなさつた事はないのではないかと思いつつ、バス旅行をする事に致しました。只、問題なのはその費用の点なのですが、なるべく会員の皆様に負担をかけずに実現に努力するつもりです。

尚、参加人数が分りませんとバスを頼むのに困りますので、御希望される方はなるべく早く当会事務所まで御一報下さい。

（山北）

（2）

ました。布団すらもしけなくなつた繪具やカンバースの散在している部屋へ。卒業迄は懸命に絵の基礎勉強をしたいと思います。その後の夢は肢体不自由児（そんな子供のいない世の中を望みます）が達と共に生活する事です。その為に絵を離れるかどうかは、まだ考えていません。青い芝の塾開設につきまして、4月より土曜日だけでも、役員諸氏と共に集まる児童達に触れたいたいと思います。

トピック

去る二月八日、朝日新聞社講堂で「手足の不自由な子供の父母のつどい」が開催されました。会は、関係者の挨拶、母親代表の訴え、決議文の読み上げと進められた。

当日は肢体不自由児をもつ親御さん達で会場は一杯に埋めつくされ、終始すゝり泣きが流れ、肢体不自由児の問題がいかに切実なものであるか物語ついた。

訂 正

前号で本会顧問、坂本泉先生が御仕事がされたる処を朝日新聞社「学芸部」と書きましたが「調査研究室」の間違いであります。又昨年蒲田支所で大身協の集りがあつたのは五月十二日でした。

脳性マヒの話 (1)

金沢 英児

脳性マヒには障害の重い者が多いため、今日重度の障害者に対する福祉は甚しく立おくれてゐる状態である。それには、種々な理由が考えられるが、老令とか結核とか、或はガン等の問題に比して、まだ一般化されていないことがある。

と思う。つまり、重度の障害者に対する世間の認識が足りないというのが現状ではないだろうか。例えば、脳性マヒを見た世間の目は奇異か憐憫かと大部分であつて、脳性マヒというものを識つてゐる人はどの位いるだろうか。従つて、脳性マヒの福祉を図るには、脳性マヒとはどういうものかという第一段階から始めなければならないと思う。以下、いくつかの小冊子から得た知識をまとめてみよう。

そもそも脳性マヒとは脳の故障のために身体の自由がきかなくなるものであるが、それはその脳の故障は何故起るのだろうか。これは色々な原因によるもので、決して一つの原因によるのではないが、時間的にみると、(1)妊娠中、(2)出産時、(3)乳幼児期の三つに大別される。つまり、(1)妊娠中に脳の故障が起る原因として母親が妊娠中毒症とか流行性感冒その他の病気になると、胎児がその影響をうけ

て脳に故障を来たすことがあり、ことに胎児の脳の発育が盛んな妊娠一ヶ月から四ヶ月頃にこのようなことが起り易い。

それから、血液のRh因子が関係することがあり、母親がRh陰性であつてRh陽性の子供が生れると脳に故障の起る可能性がある。尚、極めて少數乍ら、遺伝的な原因で胎児の脳の発育に故障を来る場合もある。

次に、(2)の出産時に故障が起る場合について、難産で産道に無理があつて胎児の頭が強く圧迫されて脳の内部に出血するとか、反対にこく軽いお産でも、母親の胎内から短時間で外界に出るため、脳の中の圧力が急激に変化するので脳の血管が破れて出血して脳性マヒになることがある。又、早産児の場合、血管がもろいので、出産の際に出血を起すことも重要な原因と考えられている。それから、仮死分娩のために一時酸素の補給が途絶えて脳に故障を来すことがある。

即ち、脳の組織は酸素の欠乏に敏感であり、そのためごく短時間の仮死状態の間に、脳の中に故障の起ることがしばしばあり、これが脳性マヒの大きな原因になる。その他、鉗子分娩の際に鉗子が胎児の頭を圧迫して脳に故障を起すことがある。以上のようなことが脳に故障を起す原因の大部分(九〇%以上)だが、(3)の乳幼児期に脳が侵される原因としては脳膜炎や脳炎にかゝつて、そのしこりが

脳に残つて故障となるとか、頭に大怪我をして脳に出血する、といったようなことがあがられる。

今迄あげたほかにも、まだ原因是あるといわれるが、ともかく脳性マヒは單一の原因による単一の病気ではなく、いわば似たような症状をもつたものゝ寄り合ったよな症候群なのである。このことから脳性マヒにはいろいろな病型がある。即ち脳の侵される場所により、痙攣型(手足のつづばるのが特徴)アテローゼ型(身体や手足をいつももゆり動かすのが特徴)、失調型(身体の平衡がうまくとれずぶらぶらする)、その他型に分けられる。

面白いことに、失調型は小脳の部分が侵されたものだが、鳥や魚のように空や水中で、身体の平均をとり乍らすばやく行動しなければならぬ動物では、小脳がとくによく発達しているという。

ともかく、人間が自由自在に手足を動かせるのは、神経や筋肉の複雑微妙な働きによるものだが、とりわけ脳の中にこうした運動の参考本部ともいふべきものがあつて、これが身体の運動を巧みにやつつている。ところが脳性マヒの場合には、「この参考本部に故障があるのでいろいろな動作がうまく出来ないのである。

見られるということ

宮 尾 修

私はさいきん、よく外へ出るようになつた。と言つても、椅子車でだが、外へ出ると家の中にいるのとはちがつて、いろいろ新しい体験が待ちかまえている。この、見られるということも、その一つだ。何しろ、大の男が、乳母車の化け物のようなものに乗つかつて、押せらねつているのだから、自立つ。一步外へ出ると、私を知つてゐる人、知らない人、歩いていると、道の向う側の人までが視線を投げて行く。子供なんかは無邪気だから、「お母ちゃん、あの人なあに」と連れの母親へ聞いているのが、こちらの耳に入ることもある。

「せんねとき、私の心は、一体どんな反應を示すだろうか。」

いつであつたか、ラジオの録音ルボで一人の不自由者が、「外へ出ると見られるのでイヤだ」と言つてゐるのを聞いた事がある。では、どうすればよいのか? 「ジロジロ見ないでもらいたい」とその不自由者は言つていた。私はそのとき思つた、この人は見られたときだけしか自分の不具を意識しないのだろうか、と。勿論、見られたときはより強く意識する。けれども、ほんとうはそれではないのだ、私達は一人でいるときこそ、もつ

青い芝
白土 信江

今日の門出に菊の花
我等の道に幸あれと
手に手をとりて苦しみを
越えていこうよ青い芝

二
静かな空よ清らかな
紅もゆるたそがれも
明日の朝をちぎりつゝ
とわの灯 胸深く

三

曉風強く露はれて
喜あふるこのみ反
歎きも忘れ我等行く
光の道よ 青い芝

トピック

近時、身障者に年金を支給せよ、といふ運動が高まり、東京においては昨年の十一月五日、国民障害年金制度推進全国身障者大会が開かれ、又、本年に入つて一月十六日に大阪で、一月二十三日には福岡で夫々推進大会が開かれた。

厚生省でも重度身障者の対策として、年金の支給が考えられているといふ。

ヒント

抜けたお匙

私の處へ参ります小つちやい従弟が、これを「あぶけたお匙」と申します。種をあかせば西瓜のスプーンの事なのです。が、脳性の食事をなさるのに困難な方々には案外調法な物ではないかと思われます。丸や角の圓形物はなかなか御口まで御持ちになるのは大変で御座います。そこで此のお匙の先がフォークの代用になると申すわけなのです。但しあまり長くお使いに成りませんように、適当な処で、おはしに切替て上げて下さいませ。

カンガルー前掛け

普通の前掛けの両側の処、膝にかかる部分のはじにホックが紐を縫いつけて二重に成るようになさつて下さい。つまり膝の上、胸の下あたりが袋になります。檣でもお入れになつてビニールでもはつてお置きになれば、湯茶の少しのおこぼれ位、らくに止つて居りますが、それより不斷の物にホックでもおつけになつて食事の時にバチンとお留になつた方がお楽だと存じられます。

膝蒲団

前のめりに駆けだすじやのお子さんは

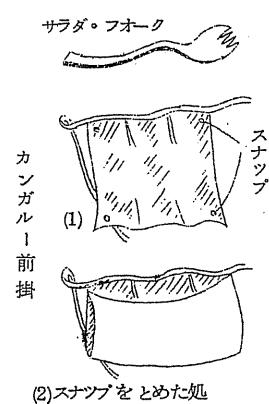
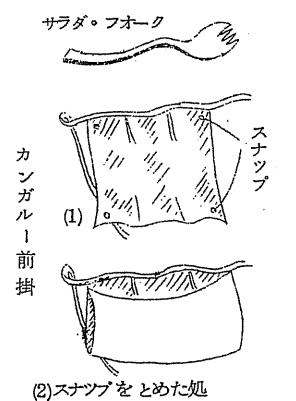
とかく膝をつきやすく、一日何回とおしゃる記録保持者が多くてとかく赤チンやおれた靴下や古くなつたネルの切端で、のピンが急がしいものです。手のビンが急がしいものです。お母様方一々縫付けておあげ下さい。

折れないクレヨン

金沢英児

手の悪い者がクレヨンを使うと、すぐ折れてしまう。現に僕もそうである。脳性マヒのお子さんをお持ちのあるお母さんは、何本もの細い割箸状のものでクレヨンを補強して使わせていらつしやつたところで、僕が小学校に入った頃には、（押出しクレヨン）たいうのがあつた。これはクレヨンをボール紙でまいたものであり、お尻から少しつ棒で押し出していくもので折れるといふ事がなかつた。

僕はそれを愛用したものだつた。今でもそのクレヨンはあるだらうか。僕は何軒かのデパートを探してみた。しかし、どこでも売つていない。手の悪い者にはいゝクレヨンだつたのに今は作られていないのか、僕は惜しいような気になつた。



本会設立以来、本会へ御寄附下された方々の御芳名

(順不同)

世沢 同 布 古田 信子
高麻佐 小 布 古田 信子
西松草 高野 下志川 田尾 沢場 中山
今山 新西村 正一玉阿 道元伸和
森石 田井 德三 和秀 八千代
大田区身体障害者扶助会 藤澤 信之
馬保 愛子 子子 伊太郎
須愛子 田中 長次郎 岸潔夫郎
原様 様 一主婦 緒子 子子吾郎
大田区文化人クラブ 様 様 様 様 様 様 様

リクリエーション決定!!

解散：池上駅前午後五時

五反田駅前同五時三十分

(予定)

各自持つて行く物：弁当、水、間食
(砂浜に坐るため)

備考

一、参加申込は三月中にお出し下さい。それ迄に申込なき方は不参加と認めます。尚、バスの定員がありますので申込多数の時は抽選を行います。抽選もそれの方にのみその旨を四月十日迄お知らせし、次回優先的にお招きします。

二、藤沢、鎌倉近辺に在住される会員の方は十二時頃鎌倉太仏にお集り下さい。

三、万一の場合を考え、お医者と看護婦さん各一人、同乗して頂きます。その他、この旅行計画を初めから援助して下さり道中をより楽しくするため手伝つて下さる方々が七、八人いられるので、一人歩き困難な方でも、集合場所送つて下さり解散場所まで迎えて下されば結構と存じます。

四、この旅行のため特別に費用は頂かない。

五、山手線で渋谷、新宿方面から五反田へ来られる方は、朝八時半頃同駅の乗客が非常に多いので、特に御注意下さい。

(以上)

白石明子さん 詩集を発行

「片目」二題

本会員の白石明子さんが、この度、詩集を発行されました。それは、教育委員で先生でいらっしゃる白石さんの御母堂と白石さんの中学時代の先生の御協力によつて出しが出来たのだそうです。この詩集は、白石さんが詩を作り始めた中学時代から、今までにたまたま数冊の詩ノートを整理し、まとめたものです。そして、そのカリ版は御母堂がお仕事の合間に切られたのだとか……。それは、B5版百ページという立派なもので、黄表紙には詩集の題名が「口笛」と書かれていますが、特にこゝで云いたいのは、その中の何処にも障害者は住んでいない、という事です。次の詩は、「口笛」の中にあつた一つです。

生命の旅

頭があろうと なかろうと
私は 私だけの生活
私なりの人格なのだ
生活とたかう
一人の人間

そして ことくを
その気がるさを
私の道としている
たびびとだ
それは
バカであるかもしない
頭があろうとなかろうと
人の目には
美しい命の旅を美しく
見えるだらう
ただ私は
はかない命の旅を美しく
力がぎり
努力して行くだけだから……
(昭和二九年作)

東京急行池上線の雪ヶ谷大塚その他の駅では、手の悪い僕たちが切符を買うと切符やつり鉄を直接手に渡してくれる、とかく外に出ると何かにつけ不自由を覚える僕たちにとって、ほんとに有難い心遣いである。そして、すべて福祉の増進には地域社会の協力が必要であることを思うとき、まことに喜ばしいことでもある。

駅、デパートに手すりのないところが多い。不自由な身障者のためにどうか手作りを作つてやって下さい。という運動を二人の足の不自由な若いお医者さん、渡辺誠介さん(二十九)、武井義夫さん(三〇)、何れも千葉大医学部附属病院第一内科研究生が始めた。とは「サンデー毎日」(三二年一〇月六日号)に出ていたことである。

編集後記

- 今号には、会員諸氏からの手紙の中から適当なものを選んで掲載する。「通信欄」のようなものを予定してあつたのだが、バス旅行の事が急速に決定したので、そのお知らせと並んでしまつた。次号からはそういう欄を作りたいと思つてゐる。それで、会員からのお手紙をお待ちしている。
- 金員諸氏からの投稿をお待ちしている。作るつもりだが、とりあえず二頁増やして会員名簿とし配布することにした。
- 特に、体験記、ヒント、片目などの会員諸氏からの投稿をお待ちしている。
- リクリエーション当日が良い天氣である事を、役員一同祈つてゐる。

「青い芝」

会員名簿(略五十音順)

荒井直之	新井宏	新井安藤	石田富士夫	伊藤正夫	宇田川久夫	榎沢節子	遠藤浜吉	江口良一	榎本竜喜	小田登	大森のり子
大田区大井水神町	二八六	板橋区中台町	二八二四	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	大田区仲六郷	一ノ五	新宿区下落合	一ノ五二七	大田区羽田本町	四八七
大田区仲六郷	一ノ五	大田区仲蒲田	一ノ七一	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	大田区御園	二ノ三六	大田区羽田	一ノ四五八	村田方	
新宿区下落合	一ノ五二七	大田区仲蒲田	一ノ七一	千葉県長生郡長生村金田	ペデスタルホーム	大田区羽田本町	四八七	大田区羽田	一ノ四五八	大田区蓮沼	六一

折本昭子	金沢英児	川井千恵子	川島牧子	川井千恵子	金沢英児	川井千恵子	川島牧子	川井千恵子	金沢英児	川井千恵子	川井千恵子
茨城県新治郡出島村田伏	大田区田園調布	新宿区下落合	大田区市野倉町	新宿区下落合	千葉県安房郡鴨川町前原	新宿区角筈	大田区新井宿	大田区新井宿	大田区東山区今熊野北日吉	大田区馬込東一ノ一〇九〇	大田区入新井
大田区田園調布	二ノ六六	二ノ六七〇	三〇三	二ノ六七〇	六三	二ノ五三	五ノ二九	五ノ二九	女大二小松	九七七	九七七
新宿区下落合	二ノ三六	大田区小平町	一ノ二一九	大田区小平町	身障者職補内	大田区角筈	新宿区角筈	新宿区角筈	大田区東山区今熊野北日吉	大田区馬込東一ノ一〇九〇	大田区入新井

佐々木勇三	佐野文彦	島田友行	大田区北千束	中野区昭和通り	大田区南千束
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一

佐々木勇三	佐野文彦	島田友行	大田区北千束	中野区昭和通り	大田区南千束
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一

佐々木勇三	佐野文彦	島田友行	大田区北千束	中野区昭和通り	大田区南千束
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一

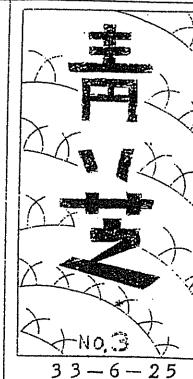
佐々木勇三	佐野文彦	島田友行	大田区北千束	中野区昭和通り	大田区南千束
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一
酒井栄子	酒井栄子	島田友行	六二三	二ノ三三	二七一

田中伸吾	田向文江	谷岡久	寺田純一	中馬保子	成田秀子	西野清三郎	能勢敦子	長谷川昭夫	馬場雄二	馬場達子	林久見	林三枝子	平塚俊太	菱山きよ子	松崎英子	古沢英子	松井博志	藤沢市片瀬	千葉県市川市八幡町	大田区新井宿	大田区羽田	練馬区南町	都下北多摩郡小平町小金井	合東区上野桜木町	大田区羽田本町	三六三						
品川区大井坂下町	二六八	都下南多摩郡忠生村木曾	三〇五	世田ヶ谷区深沢町	三〇一九	都下北多摩郡小金井町小金井	一八七〇	藤沢市鶴沼	一九〇五	杉並区大宮前	六ノ三七八	谷岡久	寺田純一	中馬保子	成田秀子	西野清三郎	能勢敦子	長谷川昭夫	馬場雄二	馬場達子	林久見	林三枝子	平塚俊太	菱山きよ子	松崎英子	古沢英子	松井博志	藤沢市鶴沼	六七〇三			
田中良知	新宿区原町	一ノ一	大田区雪ヶ谷町	二六	大田区上池上町	一〇一六	千葉県勝浦町沢倉	六二一	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	静岡県磐田郡二俣町渡ヶ島	天竜厚生会	大田区上池上町	一〇一六	大田区雪ヶ谷町	二六	大田区調布千鳥町	六四九	大田区上池上町	一〇一六	大田区雪ヶ谷町	二六	大田区羽田	一ノ三七六	練馬区南町	二ノ五九一三	高井方	都下北多摩郡小平町小金井	一八七〇			
田中作子	大田区大森	二ノ五四	大田区大森	二ノ五四	大田区大森	一ノ一三七	千葉県船橋市本町	一ノ二四〇二	大田区仲六郷	一ノ二二一	大田区仲六郷	一ノ二二一	千葉県船橋市本町	一ノ二四〇二	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一		
田中良知	大田区調布領町	一ノ一三七	大田区調布領町	一ノ一三七	大田区調布領町	一ノ一三七	千葉県東八代郡一宮町上矢作	大田区雪ヶ谷町	七五二	大田区東六郷	二ノ一四	大田区東六郷	二ノ一四	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一	大田区仲蒲田	一ノ二二一											
田中良知	大田区昭和通り	一ノ一七	大田区昭和通り	一ノ一七	大田区昭和通り	一ノ一七	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内				
田中良知	中野区宮下町	一一	中野区宮下町	一一	中野区宮下町	一一	目黒区大原町	二五	大田区調布領町	二ノ八	大田区調布領町	二ノ八	大田区調布領町	二ノ八	大田区雪ヶ谷町	七五二	大田区雪ヶ谷町	七五二	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七	大田区馬込町西	三ノ六七
田中良知	荒川区南千住町	五ノ七六	荒川区南千住町	五ノ七六	荒川区南千住町	五ノ七六	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内				
田中良知	大田区大森	二ノ二三	大田区大森	二ノ二三	大田区大森	二ノ二三	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内				
田中良知	中野区昭和通り	一ノ一七	中野区昭和通り	一ノ一七	中野区昭和通り	一ノ一七	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内	都下北多摩郡小平町小川	身障者職補内				

賛助会員

市川茂夫
今井秀子
奥村智恵子
篠原敏子
丸山かよ
川島弘子

目黒区大岡山 一二八
都下北多摩郡久留米町南沢
中野区打越町 二六 岩間方
渋谷区代々木西原 八六三
豊島区西巣鴨 一ノ三五一八
埼玉県熊ヶ谷市大字三尻



塾を始めて

金沢英児

発行所 大田区雪ヶ谷七五一一・青い芝の会
印刷所 大田区調布嶺町二丁村三一
更正社タイブライター・オフィス
編集責任者 能勢敦子

「青い芝」の塾は、四月五日入学式ならぬ入塾式をもつて開かれた。その日、お母さんやお姉さんに手をひかれたり、おふさつたりしてやつて来たのは七人の子どもたちだ。今年光明学校の入学選考にもれた者から伊藤先生が選んで下さった子どもたちだ。

そもそもこの「青い芝」の塾は前号に書いたように、伊藤先生が御自分の剣道場の二階を開放して下さつたために聞くところが出来たのだが、その上先生は塾を始めるに当つて机やいすも新しくとゝの会としても、積木やおもちゃやの楽器などをいくつか買ひそろえた。それらの品々は僕達にも何か新鮮な期待を抱かせてくれた。集つた子どもたち

を見ると、三人は歩行不能だが、あとの四人は歩ける。みんな可愛い男の子、女の子たちだ。あくまでこの子どもたちの仕合わせを願い、真心をもつてはぐくんで上げよう。指導するというのではなくて下さつた子の面倒をうなづいて、お母さんやお姉さんと一緒に手をひかれたりしてやつて来たのは七人の子どもたちだ。あくまでこの子どもたちの仕合わせを願い、真心をもつてはぐくんで上げよう。指導するというのではなくて下さつた子の面倒をうなづいて、お母さんやお姉さんと一緒に手をひかれたりしてやつて来たのは七人の子どもたちだ。

う子どもも、塾に来るとき声が小さくなってしまう。それは子どもたちが固くなるからなのだろう。そして、それは僕達の指導がまづいからだと反省させられた。何よりもまづこの塾になれさせなければならないと改めて痛感させられた。子どもには子どもの世界がある。といふ。僕達はまづ子どもの気持の中に入つて行きなければならない、子どもの面白がることをいやがる心を持たなくてはならない。僕達は子どもたちと相撲をとつたり、野球のまねごとをしたりし始めた。時には靴下をぬいで一緒にかけっこをした。そして、今のところ一緒に遊んでやることに、ほんとにいい友達になつて上げることになつて勉強し、そして遊んだりしよう。そういう思いの中には又果して上手にやつていてかるかしらとの不安もあつた。しかし、とにかく一心にやつてみるとことだとの思いを新たにして、僕達はまたもやら塾になれてきたようだ。

伊藤先生、原田先生も列席されたオーディションもどうやら塾になれてきたようだ。僕達の指導もどうやら僕達はまづ子どもの気持の中に入つて行くことに精一杯であるような気がする。しかし、塾を始めてから二ヶ月、この頃子ども達もどうやら塾になれてきたようだ。

ここに記すのは教科書を使うこととしたが、そんな勉強に積極性を示す子どもも出て來た。僕達の指導もどうやら僕達は言語障害を持つているが、子どもたちは出来るだけいきなり音を出して聞かせようと努める。それは僕にとってどんなにいいことか。父子ともに間違いのない